



新 埼玉連だより

第 138 号

一般社団法人 埼玉県子ども会連合会
 発行責任者 大 鹿 良 夫
 編集 広 報 委 員 会
 事務局 さいたま市浦和区北浦和5-6-5
 埼玉県浦和合同庁舎別館内
 TEL (048) 822-8621



目次

- ・ 第42回 彩の国21世紀郷土かるた県大会 2/3
- ・ 関ブ口 埼玉大会に想う 4
- ・ 事務局だより 4
- ・ 編集後記 4



紀郷土かるた県大会

日高市文化体育館 日高アリーナ



かるた県大会について

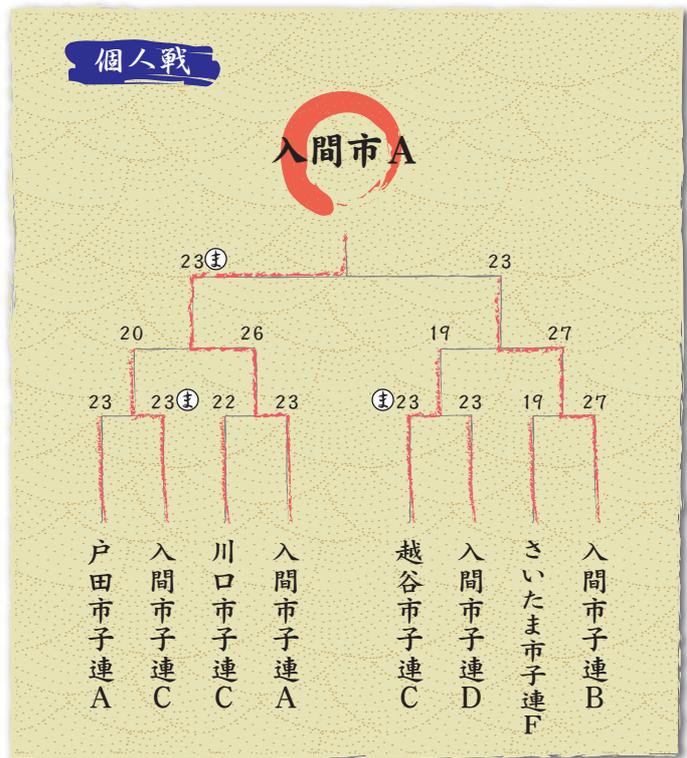
快晴に恵まれた令和6年3月10日、「第42回 彩の国21世紀郷土かるた県大会」が日高市文化体育館ひだかアリーナに於いて開催されました。5年ぶりに団体戦も行われ、この日のために、一生懸命練習を重ねてきた子どもたちは、緊張の面持ちで開会式に臨んでいました。大野知事のご臨

席を賜り、子どもたちに対して温かいエールをいただきました。個人戦、団体戦ともに白熱した試合が繰り広げられ、見ている大人たちにも感動を与えてくれました。ユース・リーダー、ジュニア・リーダーも大活躍をして、大会を支えてくれました。「彩の国21世紀郷土かるた」競技必携の1競技を始める前に、記載があるように、

この大会は、勝負にこだわることなく、郷土埼玉が育てた人物や美しい自然・文化や産業等を心にえがきながら、ルールを守って、礼儀正しく、仲良く学び、各地域の子どもたちが交流を深めるためのものです。勝敗にこだわらず、子どもたちの楽しい思い出になる大会にしなければなりません。今大会では運営に対して、

厳しいご意見やご指摘をいただきました。埼玉連は、そのひとつ一つに対して反省し、精査して改善に取り組んでまいります。各市区町子連も原点に立ち返って、子どもたちの健全な育成の一助となるよう、ご協力をお願いします。一年後には、越谷市総合体育館でお会いしましょう！

個人戦



個人成績表

一位	入間市子連 A	飯嶌悠生
二位	入間市子連 B	橋本萌菜美
三位	入間市子連 C	京谷莉里
四位	越谷市子連 C	江川由夏
五位	入間市子連 D	島田恵信
六位	川口市子連 C	塚本葉音
七位	さいたま市子連 F	橋内悠人
八位	戸田市子連 A	中村瑠々愛

個人

優勝 飯嶌悠生(入間市)

自陣が弱いから取れるようにする練習、手が早く出せる様な練習をした。暗記も頑張った。お母さんに優勝を伝えたい。県大会が一番強いことが証明できて嬉しい。

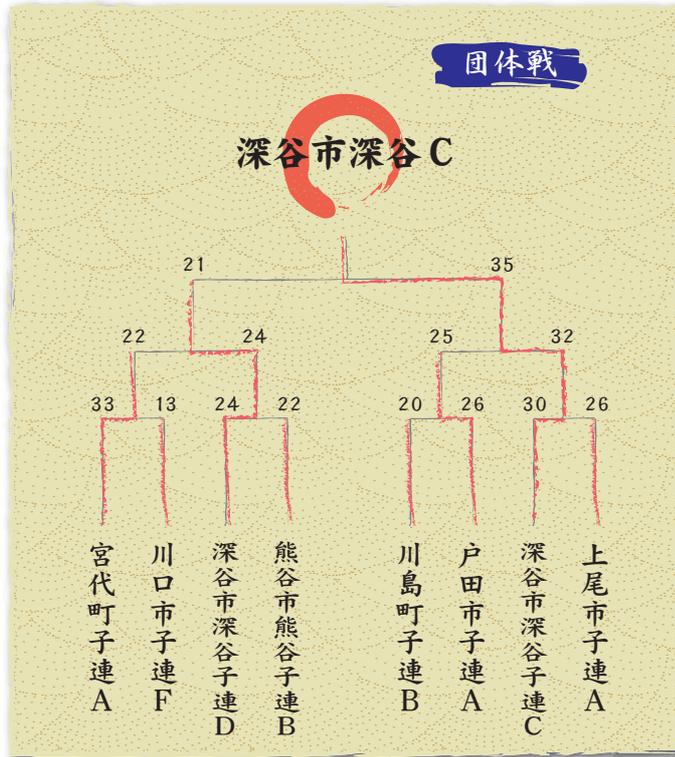
準優勝 橋本萌菜美(入間市)

自分に最適な練習方法を見つけて、出来る限り取り組んだ。一緒に練習をしてくれたジュニアさんと、家族に成績を伝えたい。主催者や助けてくださった多くの方々に感謝している。



第42回 彩の国21世

日付 令和6年3月10日(日)



団体

優勝 深谷市Cチーム

家でも学校でも、とにかく練習をたくさんした。校長先生、担任の先生、一緒に練習を頑張った仲間、優勝を伝えたい。小学校最高の思い出になった。かるたを頑張った良かった。皆さんのやさしさに感謝を忘れません。

準優勝 深谷市Dチーム

積極的に練習に参加した。両親にこの喜びを伝えたい。来年はジュニア・リーダーとして頑張りたい(6年生)。来年、もう一回参加したい(5年生)。



団体成績表



- 一位 深谷市深谷子連C
青木優衣、有田紗、岡添愛華
- 二位 深谷市深谷子連D
江口美羽、今泉摩保、高橋勇悝
高田心優
- 三位 宮代町子連A
小倉葵、清水優太郎、新井佐公良
薄井雪乃
- 四位 戸田市子連A
深澤来斗、渡邊佑介、山口陽己
- 五位 上尾市子連A
高橋澄玲、黒岩優真、臼井瑠架
小林ほのか
- 六位 川口市子連F
足達水瑛、長迪花、土田紗良
浅倉希依良
- 七位 熊谷市熊谷子連B
東樹希、星啓介、鈴木莉愛、植竹愛莉
- 八位 川島町子連B
鈴木悠介、山本晃玄、佐久間海斗
猪鼻珀斗

関ブロ 埼玉大会に想う

道案内をジュニア・リーダーがしたことは、参加者への「温かな・おもてなし」の歓迎の雰囲気をもたらすことができたように思える。

アトラクションを開会式に組み入れたことにより多くの参加者ならびに来賓の方々にも見えていただいたことは開会式の間を盛り上げた。

ユース・リーダーの司会のもとに開会式が開催できたことは良かった。

開会式の大野知事をはじめ多くのご来賓の方々をお迎えて、祝辞をいただけたことは良かった。

多くの国会議員の方々から祝電をいただきました。このことは議員連盟の立ち上げにより子ども会に対する国会議員の方々の関心や応援の表れとして感謝申し上げます。

基調講演では全子連の内容や現代の課題等が話題になって良かった。

分科会の進行が、関ブロ推進研究会の方々を中心に進められたことは今回の関ブロの分科会の継続審議に繋がりました。

情報交換会では、川越の木遣り保存会の方の先導で来賓・表彰者の入場は、場を盛り上げた。また、各県の紹介で皆さんのご協力をいただき、

多くの方々との親睦、交流を深められたと思います。また、情報交換会を終えてからの、二次会も川越の街でさらに交流を深められたことと思います。

朝食が、食事会場の広さの都合で、2日目の開催を30分程度、例年より遅らせていただきましたが、全体の終了時間には影響はなかった。

分科会発表では、各分科会の代表者がそれぞれの確に発表され、使用したシートがとも効果的であった。

閉会行事の引継ぎ式では、

ポールに旗をつけ、旗が見えるように旗を振り、引継ぎをしたことは実感がわきました。(今までは旗を折ったままでしたが)

宿泊関係ですが、ホテルの手配等で業者に入っていたいただきましたが、各県での直接予約等もあり、当初見込んだ人数の方々の予約がなく、キャンセル料を支払うことになってしまいました。宿泊のホテル等の予約は、開催県が紹介のみで各県で宿泊予約をされた方が開催県に負担がからず、直前のキャンセル等の対応も各県ごとの方が容易かと思えます。

尚、地元開催県の会長が急遽の欠席の為、関ブロの山田副会長様には多くの場面でのご挨拶をお願いすることとなり、大変感謝しております。

地元川越市子連の皆様の大なご協力にお礼申し上げますとともに、各県の皆様のご理解ご協力で開催できたことに感謝申し上げます。

次回の山梨大会での再会と成功を祈念しております。

事務局だより

昨年の10月22日・23日の二日間、川越市のウェスタ川越を会場にして関東甲信越静地区子ども会育成協議会が開催されました。この大会に向けて実行委員会を組織して3年がかりで準備を進めてきました。川越市の子ども会関係者をはじめたくさんの

方々のご協力をいただきながら大会を盛況のうちに終えることができました。関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和6年の年明け早々に発生した能登半島地震で大きな被害にみまわれた石川県子ども会に県内市区町子連からも多数の義援金の申し出がありました。一日も早い復旧、復興を応援したいと思います。

編集後記

令和5年度は5月に新型コロナウイルスが五類になり、子ども会もほぼ1年間活動が可能になりました。

久しぶりに制限がなくなり、

各子連も対応に苦慮されたことと思います。活動が完全にコロナ禍の前にもどつた子連、様子を見ながら徐々に活動を再開した子連、ほとんど行事を行えなかった子連など対応はさまざまです。

6年度は5年度よりは少しでもいいから前進していただければと思います。

3月に北陸新幹線が敦賀まで延伸しました。まだまだ地震からの復興途中でみなさんの支援が必要ですが、少し明るい話題となっています。

ところで新幹線の名前はいくつあるかご存じですか。全部で十九あります。そのうち十一が埼玉県を通ります。「はやぶさ」、「はやて」、「やまびこ」、「なすの」、「こまち」、「つばさ」、「かがやき」、「はくたか」、「あさま」、「とぎ」、「たにがわ」です。すごいでしょう。7月にはいよいよ洪沢栄一の一万円札が発行されます。埼玉子連もこのブームに遅れないよう頑張っていきたいと思えます。